



— 犬飼町田原 —

平 成17年3月31日の町村合併後、はや6年。それぞれの地域を訪ね、人・文化・歴史・産業・自然・景観などに触れ、『ふるさと』をもつと知り、その魅力を発信しようと思いい立って、今回で10回目を迎えました。

産業・自然・景観などに触れ、『ふるさと』をもつと知り、その魅力を発信しようと思いい立って、今回で10回目を迎えました。

春 の陽気に誘われ訪れたのは犬飼町田原の渡無瀬地区。戸数は14戸で、豊肥本線犬飼駅より3キロメートルほど。車では5、6分である。



昭和15年に撮影された犬飼石仏
※村上万喜子さん提供

ふるさとを訪ねて

— 犬飼町田原 —
(渡無瀬地区)

第十五番札所の看板

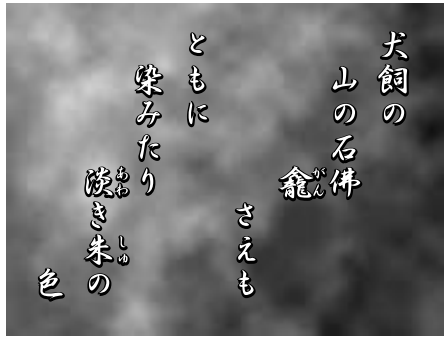
地 区の皆さんから迎えていただき、案内された国指定の犬飼石仏は、『大野川流域不動尊霊場 第十五番札所』の看板がかかる犬磨崖佛です。

うっそうとした曲りくねった市道を車で上ると、阿蘇凝灰岩でできた洞窟のような岩壁、その真下のお堂。そしてさらに向こうには岩に掘られた『南無大師遍照金剛』の大字がまず目にはいる。

また入口付近には、案内板と与謝野晶子の



現在の犬飼石仏



歌碑が建てられている。

お 堂の中には高さ3メートル76センチ

の不動明王が大岩壁のくぼみに厚肉彫りされており、結跏趺座でどかつと前方を見据えている。慈しみの御顔に接すると何とも言えない気持ちになる。

地元はもとより遠方から多くの方々が当地を訪れている。はじめの方、何度も足を運ばれる方。心が清まり、感動を覚えるとのこと。

長 年にわたり、日々当地を見守り維持管理をされている渡無瀬地区の皆様にご感謝と御礼を申し上げます。

※結跏趺座＝座禪を組むこと。左右の足の甲を反対の足のもの上に交差し、足の裏が上を向くように組む座法。



渡無瀬の方々
左から村上明子さん、村上幸恵さん、村上克典さん、村上郁夫さん

夢に描く未来像は可能か

～職員一丸となつて
お 推し進めていきます～



え とう まさ ひろ
衛 藤 正 宏

質 少子高齢化の豊後大野市。地域を支え、高齢者を支え、子どもたちを支える施策は市長の責務。日本一の政策集団による住みよい街の実現はどう進めるのか。

答 市長

地方分権一括法が施行され、自治体の位置づけが国と対等な「地方の政府」へと大きく変わりました。地域の将来像を描き、個性を生かしたまちづくりを進めるための権利と責任が出来たのです。

そこで、住民、議会および行政の自覚と権利と責任を明確にした「自治基本条例」の制定に努めてまいります。さらに、市職員が市役所とのパイプ役として地域を支援する「地域担当制度」の充実に努め、財政基盤の確立を図り、豊かな自然と環境を守り、健康で笑顔のあふれる未来ある豊後大野市のまちづくりを推進してまいります。



質

平成22年度の滞納額は、13億9607万8331円となっているが、この滞納の原因分析と今後の収納体制は、

答 総務部長

滞納の要因としては、長引く景気の低迷により、失業者、倒産などによる所得の減少により、苦しい生活が強いられるところが主要因と捉えています。

収納体制の見直しを図るため、これまで収納課長が開催していた『収納関係連絡会議』を副市長を本部長とした『市税等収納向上対策本部』に改め、これまで蓄積してきた収納業務における効果や問題点の検証などを行い、収納体制の確立強化を図ることとしています。